



【決勝・八学光星—青森山田】6回、八学光星の岡本琉奨が青森山田の蝦名翔人(左奥)に3ランを打たれる=八戸長根

光星岡本制球甘く

今夏の甲子園も経験した八学光星の先発左腕・岡本琉奨が一発に泣いた。序盤は1点差と互角の戦いを演じたが、中盤に痛恨の2被弾で計6失点。仲井宗基監督は「一番で粘り切れなかった。何とかエースに成長してほしいと

焦点

思った通り出したが、「と厳しい表情を浮かべた。課題の立ち上がり、初回の1失点に抑えて立ち直ったが、五回に見えた岡本だったが、五回につかまった。四球などで2死一、三塁のピンチを招き、迎えるは3番対馬隆翔。「絶対に抑えてやる」と気合十分で挑んだが、直球が甘く入り、左翼スタンドまで運ばれた。その後も立ち直すことができず、六回には四球と安打で2死一、三塁とされ、代打蝦名翔人と真ん中のスライダ

1を捉えられ、痛過ぎる3ランとなった。「最悪のボールだった」と、背番号10はマウンド上でがっくりとうなだれた。

制球に加え、配球や先頭打者の出塁を許してしまうことなど、敗戦で多くの課題が見つかった。東北大会に向けて「もったと際どいコースに投げ込む力をつけ、良いピッチングができるようにしたい」と成長を誓った。(千葉達也)

遅過ぎた反撃

〇…青森山田を上回る11安打を放ちながら、七回までスコアボードに0を並べた八学光星。主将の砂子田陽士は「初回のチャンスにミスで得点を奪えず、相手に流れ

を渡してしまった」と悔やんだ。初回、八学光星は先頭の竹田晋紀が左翼線を抜ける二塁打を放ち、一打先制の絶好機をつくったが、次打者の遊撃ゴロが竹田に当たってアウトに。続く砂子田も二塁打で続いたが、次打者の左直打で帰塁が遅れ

る痛恨の判断ミスを犯した。7点を追う八回、ようやく打線がつながり4点を奪ったものの、時既に遅し。砂子田は「ボール球の見極めなど、磨いてきたことが全くできなかった。センバツを勝ち取るため、もう一度、基礎からやり直したい」と前を向いた。

青森県 秋季高校野球

聖愛3位 東北大会へ

秋季東北地区高校野球青森県大会最終日は1日、八戸長根球場で決勝と3位決定戦が行われた。決勝は、3連覇を目指した青森山田が、今夏に甲子園8強入りした八学光星の追い上げを振り切り、7-4で勝利。3年連続12度目の頂点に立った。東北大会の残り一枠を懸けて弘前勢同士がぶつかった3位決定戦は、弘学聖愛が弘前南に6-5で競り勝った。青森山田、八学光星、弘学聖愛の3校は16~22日に秋田県で行われる東北大会に出場する。組み合わせ抽選会は6日。(取材班)

決勝

八学光星	0	0	0	0	0	4	0
青森山田	1	0	0	3	3	0	0

(八) 岡本、森田—仲里
(青) 櫻田、菊池統、岡一橋場
▷本塁打 対馬、蝦名(青)
▷二塁打 竹田、砂子田(八) ▷捕逸 仲里(八)
▷試合時間 2時間23分
(球審=長内、塁審=花松、石田、古川幹、外審=笹森、金)

【評】青森山田が一発攻勢で勝利を取めた。1点リードで迎えた五回、対馬が左越えに3点本塁打。続く六回には代打蝦名にも3ランが飛び出し、大きく突き放した。八学光星は八回に山本の適時打などで4点を返したが反撃もそこまで。先発岡本は7回7失点と崩れた。